

令和3年度以降 幼児保育学科 学修成果の評価指標【学生用】

専門的能力要素の学修到達目標に対する学修成果の評価指標

※到達レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

到達目標の詳細は、「キャンパス・ライフ・ハンドブック」を参照。

※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

保育者としての資質・能力（学修成果）に関する評価指標

保育者としての素養 【態度・志向性】	初歩的なレベル：1	萌芽的なレベル：2	達成的なレベル：3	模範的なレベル：4
1) 教育的愛情と情熱を持ちあわせている。 [教育的愛情・情熱]	<input type="checkbox"/> 子どものよさや可能性を認め、個を尊重することの重要性を理解している。	<input type="checkbox"/> 子どもの可能性を認め、子どものよさを見つけようと共感的・受容的に関わることができる。	<input type="checkbox"/> 子どもを共感的・受容的に受け止め、子どもとの信頼関係を築こうと努めている。	<input type="checkbox"/> 子どもを共感的・受容的に受け止め、よさや成長に気づきながら、子どもとの信頼関係を築くことができる。
2) 関係法令を理解し、それらを遵守した保育活動を展開することができる。 [法令遵守]	<input type="checkbox"/> 社会生活において法令を遵守している。 <input type="checkbox"/> 教育・保育に関係する法令があることを知っている。	<input type="checkbox"/> 保育者として守るべき職業倫理と法令を理解している。	<input type="checkbox"/> 高い倫理観をもち、法令を遵守した教育・保育を展開できる。	<input type="checkbox"/> 高い倫理観をもち、法令を遵守した教育・保育を継続的に展開できる。
3) 成長のための意欲をもち、学び続けることができる。 [向上心・向学心]	<input type="checkbox"/> 保育者として必要な資質・能力を身につけるために、学ぶ意欲をもっている。	<input type="checkbox"/> 保育者として必要な資質・能力を身につけるために、自分で勉強したり、先輩や教員、友達に相談したりしている。	<input type="checkbox"/> 身につけた資質・能力を実践場面で活用し、その結果から自己課題を見出し、その改善に向けた取り組みをおこなえる。	<input type="checkbox"/> 外部の研究会や研究会に参加するなど、自己課題に応じた実践や研究を継続的にこなえる。
子どもを理解し指導・援助する力 【知識・理解】	初歩的なレベル：1	萌芽的なレベル：2	達成的なレベル：3	模範的なレベル：4
1) 子どもの特性や個性を把握することの重要性を理解し、その手法を身につけている。 [子ども理解]	<input type="checkbox"/> 教育・保育における子ども理解の大切さを理解している。	<input type="checkbox"/> 子どもの多様性を理解して、自分なりの子ども理解を作ろうという意欲がある。 <input type="checkbox"/> 発達に関する正しい知識を持っている。	<input type="checkbox"/> 複数の観点から子どもを理解することができる。 <input type="checkbox"/> 個々の発達の状況をとらえることができる。	<input type="checkbox"/> 指導の経緯、職員間の情報共有、家庭からの情報などを総合的にとらえて、子どもを理解することができる。 <input type="checkbox"/> 子どもの発達を予測し、実際の様子と照らし合わせながら、自分の子ども理解を継続的に見直すことができる。
2) 子ども理解にもとづいて、個と集団に応じた指導・援助をすることができる。 [個と集団に応じた指導・援助]	<input type="checkbox"/> 子ども理解にもとづいて、個と集団に応じた指導・援助をすることの重要性を理解している。	<input type="checkbox"/> 個と集団の関係の発達に関する正しい知識を持っている。	<input type="checkbox"/> 子ども理解にもとづいて個と集団の関係をとりえ、個と集団に応じた指導・援助ができる。	<input type="checkbox"/> 仲良しグループとクラス全体など、複数のレベルの集団に目を向け、個と集団の関係を総合的にとらえて必要な指導・援助ができる。
3) 特別な支援を必要とする子どもを支援することができる。 [特別支援教育]	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育園等に特別な配慮の必要な子どもがいることを知っている。	<input type="checkbox"/> 特別な支援を要する子どもに対する基本的な知識・技能を身につけている。	<input type="checkbox"/> 特別な支援を要する子どもの障害の特性を理解して、一人ひとりの教育的なニーズに応じた合理的配慮を理解することができる。	<input type="checkbox"/> 特別な支援を要する子どもの障害の特性に応じて、個別の支援計画や指導計画を作成し計画的・組織的に対応することができる。
保育を展開し評価する力 【技能・表現】	初歩的なレベル：1	萌芽的なレベル：2	達成的なレベル：3	模範的なレベル：4
1) 要領・指針の理念と内容にもとづいて、保育の計画を立案することができる。 [構想力]	<input type="checkbox"/> 要領指針の理念と内容を知っている。	<input type="checkbox"/> 要領指針を踏まえた環境構成や保育展開のイメージを持つことができる。	<input type="checkbox"/> 要領指針の理念と内容を十分に（80%程度）理解し、子どもの発達に沿った適切な短期の指導計画を立案できる。	<input type="checkbox"/> 要領指針の理念と内容、園の教育課程にもとづいた適切な長期の指導計画を立案できる。
2) 保育技術を用いて、子どもの実態に応じた保育を展開することができる。 [展開力]	<input type="checkbox"/> 保育の基盤となる保育技術（手遊び、読み聞かせ、幼児曲のピアノ伴奏、ペープサート、パネルシアター、造形遊びなど）があることを知っている。 <input type="checkbox"/> 子どもの実態に応じた環境構成や関わりの重要性を理解している。	<input type="checkbox"/> 保育の基盤となる保育技術（手遊び、読み聞かせ、幼児曲のピアノ伴奏、ペープサート、パネルシアター、造形遊びなど）を幅広く身につけている。 <input type="checkbox"/> 環境の構成や子どもへの関わりに必要な基礎的な指導技術を獲得している。	<input type="checkbox"/> 保育技術（手遊び、読み聞かせ、幼児曲のピアノ伴奏、ペープサート、パネルシアター、造形遊びなど）を子どもたちの前でいつでも実践できる。 <input type="checkbox"/> 基礎的な指導技術を生かした環境の構成や子どもへの関わりができる。	<input type="checkbox"/> さまざまな保育技術（手遊び、読み聞かせ、幼児曲のピアノ伴奏、ペープサート、パネルシアター、造形遊びなど）を、子どもたちが楽しめる工夫をしながら実践できる。 <input type="checkbox"/> 子どもの実態に応じた環境の構成や子どもへの関わりができる。
3) 保育を適切に評価して、計画の改善をおこなうことができる。 [評価力]	<input type="checkbox"/> 記録をとる重要性とその方法を理解している。 <input type="checkbox"/> 保育を評価する意義と評価方法を理解している。	<input type="checkbox"/> クラスや子どもの様子、保育者のかかわり等について適切な方法で記録を取ることができる。 <input type="checkbox"/> 記録等にもとづいて、子どもの活動状況や自分の指導過程を振り返り、保育の評価をおこなえる。	<input type="checkbox"/> 保育の評価をとおして改善点に気がつき、継続的に指導計画や保育の改善をおこなえる。	<input type="checkbox"/> 実践後の保育の評価に加えて、教材や指導方法の研究にも力を注ぎ、両者の相乗効果によって継続的に保育を改善することができる。
連携・協働する力 【行動・経験・創造的思考力】	初歩的なレベル：1	萌芽的なレベル：2	達成的なレベル：3	模範的なレベル：4
1) 園組織へ参画する意識を持ち、任された職務を遂行することができる。 [組織理解と参画]	<input type="checkbox"/> 一般的な園の組織や分掌（役割分担）、担任の役割と職務内容を理解している。	<input type="checkbox"/> 任された職務を遂行しようとする意思がある。	<input type="checkbox"/> 組織の一員としての自覚を持ち、任された職務を遂行することができる。	<input type="checkbox"/> 組織の一員としての自覚を強く持ち、報告・連絡・相談をしながら、自分の職務を確実に遂行することができる。
2) 危機の未然防止と早期発見、危機を察知した際の迅速な対応ができる。 [危機管理]	<input type="checkbox"/> 疾病、感染症、アレルギー疾患等の予防と発生時の適切な対応の重要性を知っている。 <input type="checkbox"/> 園内外における危機の未然防止と発生時の適切な対応の重要性を知っている。	<input type="checkbox"/> 疾病、感染症、アレルギー疾患等に対処するために必要な知識や技能を持っている。 <input type="checkbox"/> 園内外における危機発生時に対処するために必要な知識や技能をもっている。	<input type="checkbox"/> 疾病、感染症等、アレルギー疾患等の発生時に、指示を仰ぎながら対応できる。 <input type="checkbox"/> 危機発生時に、指示を仰ぎながら対応ができる。	<input type="checkbox"/> 疾病、感染症等、アレルギー疾患等の発生時に、適切に対応できる。 <input type="checkbox"/> 園内外における危機発生時に、状況を把握して的確な指示を出しながら、適切に対応できる。
3) 保護者や地域と積極的に関わり、連携・協働した対応をおこなうことができる。 [保護者・地域の連携、子育て支援]	<input type="checkbox"/> 保護者や地域と連携・協働した「共育」の大切さを理解している。	<input type="checkbox"/> 教育・保育における連携先としてのどのような機関・職種があるかを知っている。 <input type="checkbox"/> 子どもの生活や遊びの様子を保護者に伝えることができる。	<input type="checkbox"/> 保護者や地域の関係機関と連携する際に留意すべき点を知っている。 <input type="checkbox"/> 保護者の思いを受容的に聞く方法を身につけている。	<input type="checkbox"/> 保護者や地域の関係機関、近隣校（保幼小中高）と信頼関係を築きながら、連携・協働して教育・保育ができる。 <input type="checkbox"/> 保護者と子どもについての情報交換を通して良好な関係を築き、相談しやすい雰囲気を作ることができる。

西九州大学短期大学部(学位授与方針)の到達目標に対する学修成果の評価指標 ※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。
 ※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

I 【主体的・自立的に行動できる 確かな人間力】	ベンチマーク Level 1		マイルストーン		キャップストーン Level 4
	Level 2		Level 3		
① 自己の心と体の状態を把握し、健康な生活管理を図ることができる。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを少しは持っている。健康な生活管理を少しは意識している。自分のライフスタイルについて少しはイメージできている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を少しは得ようとしている。日常の様々なストレスへの対処は十分でないが、自分のライフスタイルのイメージに合わせて健康な生活管理を意識して、少しは管理できている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を得て生活管理に努めている。自分のライフスタイルを把握しており、健康な生活習慣を意識して、少しは管理できている。日常の様々なストレスを理解しており、その改善に努めている。	自分の心と体の健康状態を理解して、健康維持のために規則正しい生活管理に努めている。将来展望のなかで、自分のライフスタイルを把握しており、生活習慣は継続して管理できている。日常の様々なストレスへの対処が十分できている。継続して良好な健康を維持できている。	
② 自己の良心と社会の規範やルールに則って行動できる。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っているか、またはその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにしている。明らかな倫理的問題や社会的ルールは浅いが認識している。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見を把握できる。明らかな倫理的問題や社会的ルールは認識しており、それらの関係性のある程度把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、不十分だがそれに対する自分の答えがある。倫理的問題や社会的ルールの背景を知っており、それらの複雑さや関係性を把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念とその由来を詳細に自己分析し、議論を深めて明確にしている。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、それに対する自分の主張を合理的に、十分かつ効果的に答えられる。複雑な倫理的問題や社会的ルールが示されてもこれらを把握でき、それらの複雑さや関係性を理解して行動がとれる。	
③ 主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調・協働して行動できる。	グループなどの集団的活動において、一員として考えを共有できる。分担する課題解決は締切までに完成できる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。分担する課題は締切までに完成できる。その成果によって、グループの課題解決を前進させることができる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。他者の考えに基づいた代替的な解決法や行動計画を提案することができる。分担する課題を締切までに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要性をチームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけることができる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。代替的な提案の長所を明確にし、チームの前進を助けることができる。分担する課題を締切までに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要性をチームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけることができる。	
④ 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。	種々の市民的活動に参加したことは少しはある。自分のなかで諸活動の意味を少しは見つめ直すことができる。社会の一員として、周囲の人との関わりを持つよう心掛けている。	種々の市民的活動に参加したことがある。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、未だ市民的意識の感覚からではないが、自分のなかで活動の意味を見つめ直すことを考え始めている。	種々の市民的活動に積極的に参加している。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、市民的意識の感覚からであり、自分のなかで活動の意味を見つめ直し、何を学んだかをはっきり述べる事ができる。	多様な市民的活動に積極的に参加している。参加した活動では、リーダーシップや役割をもって、自立的に参加している。参加した活動からは、自分の学修成果を得ている。活動への参加は、市民的意識の感覚からであり、自分の行動について、目標設定や遂行への省察や分析を行い、何を学んだかをはっきり述べる事ができる。	
⑤ 生涯にわたって自律・自立して学習できる。	与えられた課題等を仕上げる事ができる。授業の到達目標を考え、そして知識の追求に興味を持てる。その探求レベルはまだ浅いと言える。	与えられた課題等を仕上げる事ができる。授業の到達目標の先にある関連する知識を自ら追求することに興味を持てる。その探求では、成果を示すことができる。成果では、部分的だが考察し、授業外の異なる状況に応用することを少なからず述べている。	与えられた課題等に興味を持って探究することができ、仕上げる事ができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求している。これまでの学びの成果を振り返り、授業外での異なる状況に応用することができ、その成果を示すことができる。	与えられた課題等に強い興味を持って探究することができ、仕上げる事ができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求し、自己の能力を拡大する機会を授業以外にも設けて追求している。	
II 【教養ある専門職業人としての 基礎力】	ベンチマーク Level 1		マイルストーン		キャップストーン Level 4
	Level 2		Level 3		
① 社会生活・職業生活にとって意味ある知識を獲得し、総合的に理解・使用することができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 60%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解し始めている。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解しており、また将来の職業生活に向けて、専門以外の分野とのつながりについて意識し始めている。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な知識や技能の学修に努めており、日常生活において時折、総合的に知識を使用することができている。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、授業以外でも汎用的な知識や技能の獲得に自ら努めており、日常生活の場面で、総合的に活用している。	
② 専攻する特定の学問分野における知識を体系的に獲得することができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 60%以上獲得できている。専門分野の個々の学修は最低限達成している。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。専門分野の個々の学修はある程度達成しており、それらのつながりについて体系的に理解し始めている。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりについて体系的に理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を少しは考えることができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりについて体系的に獲得する必要性を理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を明確にして、創造的に活用できている。	
③ 上記知識体系を外部的視点で捉え返すことができるとともに、自己と関連付けし、洗練していくことができる。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と自分の興味とのつながりを見出し、学問的な関係性を把握している。修得した知識・技能を新しい状況で用いようと試みている。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と学問的な知識との類似性や違いを比較し、自分とは異なる見方や考え方も認めている。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用いることができる。	修学期間中に学んできた知識の枠組みを明確にするために、様々な状況のなかから生活経験の例を考えた発展的に活用することができる。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用い、適用して応用することができる。	学問分野での理解を深め、自分の見方を広めるために、授業外の諸経験の間のつながりを意識深く統合できる。修得した知識・技能を、難しい問題の解決や、複雑な課題の探索のために、新しい状況でオリジナルな方法で適用して応用することができる。	
III 【社会人としての汎用的能力】	ベンチマーク Level 1		マイルストーン		キャップストーン Level 4
	Level 2		Level 3		
① 確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、用語法を誤るが、ある最低限は注意を払い、基本的構成や提示において一貫した体系を使っている。会話において、中心的なメッセージは何か伝えることができる。構成がなっていないが、プレゼンテーションはできる。話術は相手の理解の妨げとなっていないと考えられる。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。テキストの情報を評価し、文脈や目的について、基礎的な推論ができる。与えられた課題を自覚し、特定の学問や文章作成課題に求められるルールに、幾つかの誤りがあるが従うことができる。会話において、中心的なメッセージは基本的に伝えることができる。プレゼンテーションには構造的な構成が少しはできている。話術においては、まだ自信をもって話すことができていない。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。テキストの情報を対して、より複雑な推論を行うために、一般的及び特定の知識を使用している。与えられた課題に明確に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用することができる。文章の誤りは減少しない。話において中心的メッセージは明確であり、プレゼンテーションには一貫した構造的な構成ができる。話術においては、相手興味深く聞いてくれる。	修了学期末において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。テキストの情報を超える問題に対して、テキストが含意するものを認識している。与えられた課題に対応し、あらゆる要素に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる広範なルールに細かな注意を向け遂行することができる。文章の誤りは殆どない。話において中心的メッセージは説得力をもっている。話術は洗練しており、プレゼンテーションは説得的である。相手の反応から自信を持って対応することができる。	
② 自然や社会的現象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報解釈・結論を少しは説明ができる。結論にまで結びつかないことがあるが、データの量的分析を初歩的な判断根拠として使用できる。単純に情報の変換は完了することができる。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。自然や社会的現象について、小さなミスはあるが、科学・数学的形式の情報がある程度正確に説明できる。データの量的分析を、直感やひらめきを伴わない判断根拠として使用でき、十分でないが結論を導くことができる。情報の変換は完了することができるが、その結果である科学・数学的表現は部分的に適切あるいは正確である。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明することができる。データの量的分析を、確かな判断根拠として使用でき、結論は筋が通り適切である。適切な情報を適切な科学・数学的表現に変換することができる。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明でき、これを土台とした適切な推論を立てることができる。データの量的分析を、思慮深く判断し使用しており、結論は入念で洞察に富んでいる。適切な情報をさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換することができる。	
③ ICT(情報通信技術)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。	基本的な ICT 活用ができる。手当たり次第に情報にアクセスし、本質に欠けた情報検索をしている。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の 1 つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じてある程度の ICT 活用ができる。単純な検索方略を用いて情報にアクセスし、限られたソースから情報を検索することができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の 2 つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて十分 ICT 活用ができる。多様な検索方略で、関連する情報ソースから情報を検索することができる。検索を絞り込むことができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の 3 つは正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて効果的に ICT 活用ができる。十分検討した検索方略で、適切な情報ソースを効果的に使用し情報にアクセスすることができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の全てを正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	
④ 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。	自分の見解を示す際に、現在の仮定に基づき、文脈の幾つかを同定し始めている。(選択された情報)ソースからの情報を、意図する目的まで到達できていないが、断片的に使用できる。	自分の見解を示す際に、仮定の幾つかを批判的に捉えることができ、重要な幾つかの関連性を同定することができる。自他の仮定・関連性に意識を向けている。ソースからの情報を発信し、組織化することができる。情報は統合されていないが、意図された目的はある程度は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定や幾つかの関連性を同定することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し、統合できている。意図された目的は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定を体系的・方法的に徹底的に分析し、関連性を慎重に評価することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し統合できている。意図された目的は完全に達成できている。	
⑤ 問題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題に的確に対応できる。	自ら問題を発見するには至らないが、指示に従って問題に対応することができる。	指示に従って問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチエクスツョンやテーマの範囲を不完全に限定して、問題を発見し、鍵概念を決定できる。(選択された情報)ソースを概念と部分的に関連付けるか、リサーチエクスツョンに答えるかすることができる。	指示に従って、能動的に問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチエクスツョンやテーマの範囲を十分に限定して、問題を発見し、鍵概念を決定できる。ソースを概念と関連付けるか、リサーチエクスツョンに答えるかすることができる。	指示に従って、問題に対応することができる。リサーチエクスツョンやテーマの範囲を効果的に限定しており、鍵概念は決定できる。ソースを概念と直接に関連付けるか、リサーチエクスツョンに答えるかすることができる。授業外の他の事柄に対して、自分に関係する問題を発見し、創造的に対応することができる。	
IV 【地域生活を支援し、 創造する力】	ベンチマーク Level 1		マイルストーン		キャップストーン Level 4
	Level 2		Level 3		
① 上記 I ~ III の態度・志向性・知識・技能の知識を総合的に活用し、個人の職業生活及び社会生活のクオリティ向上を図ることができる。	自分のパフォーマンスを、成功が失敗かという一般的な記述で認識している。生活経験と、自分の興味との類似性や関連性が認められるアカデミックな文章やアイデアとのつながりを同定することができる。	自分の強みと課題を明確に表現し、別の文脈での有効性を高めている。生活経験とアカデミックな知識を、差異と類似性を判断するために比較し、自分とは異なる見方も認めることができる。	学修による自分の変化を正しく評価しており、複雑な文脈要因を認識している。学問分野の枠組みを明確にするために、様々な文脈から生活経験の例を効果的に選び、発展させている実例を示すことができる。	複雑な社会の下に置かれる将来の自分を現実的に思い描くことができる。学問分野での理解を深め、そして自分の見方を広めるために、生活経験や授業外経験などの諸経験とのつながりを意識深く統合していることが、実例で示すことができる。	
② 地域での実践活動をもとに、上記 I ~ III の知識・技能・態度・志向性を総合的に活用し、自発的に地域課題を解決することができる。	ボランティアなどの市民的活動を体験しており、自分の経験によって得た事柄について十分ではないが示すことができる。グローバルな関心事に対し、自分の内面で少しは考えている。	市民(プレ社会人)としてははっきりとした態度をもって参加・活動できる。コミュニケーション力(プレゼンテーション力、傾聴力、対話力、話術等)の一つ以上の要素をきちんと備えている。グローバルな問題を構成している複雑な関係を検討し、社会的・文化的な影響への考えを少しは持っている。	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験でき、その成果を示すことができる。相手との円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探求を行うなかで、地域課題の解決のアプローチと自己の判断を明確にしている。	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験でき、その成果を示すことができる。変容する異なる状況においても円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探求を行うなかで、地域課題の解決のアプローチと自己の判断を明確にしている。	
③ 上記 I ~ III の知識・技能・態度・志向性の総合的知識を統合し、個人の人間性的高揚を高めていくことができる。	個々の学びについて断片的、あるいは浅いレベルで振り返っている。	これまでの学んできたことの意味を多少は明確にし、以前(入学前)よりもある程度の視野を広げている。これまでの学びをある程度の深さで再検討している。	これまでの学んできたことを十分に明確にしており、以前よりも広い視野をもって深く振り返っている。自己の人間性の向上を図ることについて考えている。	これまでの学びを明確に参照し、異なる状況に革新的に応用することができる。これまでの学びを深く再検討することで、視野を変化させ、長期間にわたって自己成長・成熟を拡張するための基盤をもっている。	